

城北中学校区新統合小学校地域懇談会で出された意見

No.	学校名	意見区分	意見	懇談会での回答
1	東小	ふるさと学習・地域とのかかわり	東小学校区は地域としても「育てる会」を中心に学校に関わってきた。その中で少人数教育の良さ、ふるさと学習の良さ、学校と地域の連携が東小学校区は素晴らしいと感じている。統合によりいい建物も大事だが、地域がどう関わっていくかが大事だと考えているので統合小学校でもお願いしたい。	東小学校はふるさと学習を行うのに適した地域の宝がたくさんある。それを小学校や中学校のどの段階で何を学んでいくかということ、ふるさと学習連携カリキュラム委員会で検討していく予定。また瑞穂地区には長野県に2つしかない国の重要文化財もあり、統合小学校でも他地域の児童にもぜひ学んでほしいと思う。ただ今まで東小学校で学んできたふるさと学習を地域にお願いしていかねばならない部分も出てくると思う。地域にもお願いする中で、学校だけでなく地域でも子どもを育てていくということになればよいと思うのでお願いしたい。
2	東小	通学方法・通学路	孫が2年生になるときに統合になるが、東小学校からだスクールバスになると思うが、全員が間違いなくバスに乗れること、部活などで遅くなる子も全員乗れるようスクールバスを運行してほしいと思う。	統合小整備にあたり大切に考えないといけない部分であると思う。この計画策定作業が終わったら、早々に通学方法等の検討に向け分析作業を進めていきたい。令和4年度にはそれをベースにじっくり検討委員会で検討していきたい。その際はまたご協力いただきたい。
3	東小	施設後利用	地域とのかかわりの話があったが、今まで公民館活動等で体育館やグラウンド等を使用させていただいている。統合後もグラウンドや体育館を使用させていただけるようお願いしたい。	今の段階では統合後の活用は明確には定まっていない。十分に地域の皆さんの声を検討委員会でお聞きしながら協議を進めていきたい。時期は統合直前、又は統合後になるかもしれないが、大切な課題なのでしっかり考えていきたい。
4	東小	目指す教育・学習内容について	4ページの部分に「目指す子どもの姿・重点となる・・・」の記載があるが、人権とかいじめへの対応については対応が欠けているのではないかという感想。	計画への「人権」に関する取り組みの記載は、ご意見を聞いてなんらかの形で追加することが必要だと考えている。 【意見への対応】 建設基本計画(案)P4「重点となる教育」の記載を修正。
5	東小	児童クラブ	児童クラブは自分の家のように安心して過ごせる場所であってほしい。特に1年生には配慮が必要。そのためには十分な広さに対応できる人数の指導員の配置も必要。児童クラブは保護者が迎えに来るまで、勉強、読書、遊びなど様々な活動をするため、それに伴い机、テレビ、児童の荷物置き場、指導員の休憩スペースなど広いスペースが必要となるが、この面積では難しいのではないか。体育館を使えるようにするなら全面的に開放するのか。	児童クラブの広さの基準は1人あたり1.63㎡となっており、単純に想定の方員70名を掛けると120㎡弱となる。今回の計画では平面図に記載のとおり児童クラブエリアの面積は232㎡となっている。また玄関は社会体育の玄関を利用することとしている。体育館も開放することを考えて設計配置している。現在児童クラブはただの四角いエリアとなっているが、この中をどのように安全に配慮して利用していくかは、来年の児童クラブ検討委員会の意見も踏まえ設計に反映していきたい。
6	東小	児童クラブ	今度の児童クラブは一か所にまとめるとのことだが、例えば地域で希望すれば現在の場所に設置は可能か。1か所なら人数は何人ぐらいを想定しているか。	計画で示しているとおり、新しい小学校で1つのクラブに統合する。現在の4小学校の利用者の合計は85名だが、統合時の全児童数は現在の飯山小学校の規模である250名程度で、飯山小は70名定員で児童クラブを運営しているため、統合小の児童クラブもその程度の人数となる見込み。

No.	学校名	意見区分	意見	懇談会での回答
7	東小	新しい校舎・グラウンド等施設について	安心安全な運営を行うために、児童クラブ指導員の話聞き設計に反映させてほしい。 ・校舎内の設計について学校の先生からワークショップで意見を聞いたそうだが、設計完了後にも再度意見を聞いてほしい。 12月に基本設計を終えるとのことだが、時間や費用を惜しまずにじっくり検討して校舎を整備することが必要だと思うのでお願いしたい。 教室の仕様についても実際に指導に携わる先生に意見を聞くことはあるか。	実施設計に向けて、指導員さんの意見は聞いていきたいと考えている。資料も社会福祉協議会に共有している。 来年度の実施設計の検討の中で先生の意見は随時聞いていきたい。 学校ができあがった後も随時お話を聞いていきたい。
8	東小	通学方法・通学路	自分の母校でもあるが、自宅から学校まで片道20分徒歩で通学していたのが、スクールバスで通学となると基礎体力の低下が心配。 授業でそのあたりを補ってもらうような計画なのか教えてほしい。	通学方法についてどのエリアをスクールバスにするかはこれから検討していくが、ある程度は歩いてもらうことも必要な部分もあるので、そういったことも踏まえて検討していきたい。体力向上は学校の授業でも教育課程に沿って対応を検討していきたい。
9	東小	クラス数・児童数について	基本計画では児童数が令和7年度では2クラスの学級だが、5年後には30人以上でも1クラスとなっている。低学年は特に大人数は良くないと思っている。35人以下であっても特に低学年は少人数を1人の先生が手厚く見てもらえるような体制にしていきたい。 新しい小学校はお金がかかっても低学年に関しては手厚く人をかけるという方向にしていきたい。	計画4ページ新統合小の目指す教育を実現するための取り組み③にあるとおり、原学級を基盤として教科担任制や習熟度などに応じた少人数学習や加配教員をつけるなど弾力的に行っていきたいと考えている。 ご意見をいただいた低学年については、県でも1・2年生の場合は30人を超える(~35人)と県費により加配教員の配置がある。 そのほか、統合により30人を超えたクラスが出た場合、先生1人を追加で配置してもらいたいと県教育委員会にも要望をしている。 それが難しければ市で加配するよう検討していきたい。 ⇒(質問者)そのような内容を計画に盛り込んでもらいたいと思うので検討をお願いしたい。 【意見への対応】 建設基本計画(案)8ページ「学校規模」に、1学年の児童数が長野県基準の児童数35名以下となる場合の飯山市の現段階での考え方を追記。
10	東小	クラス数・児童数について	新統合小では3年生が1クラスとなっているが、昨年の地域説明会で前教育長が「2クラスにする」と言っていた。1教室に2人の先生が配置されるという説明が今あったが、昨年の段階で完全に2クラスにするとしたのだからそのようにお願いしたい。35人を1クラスにして2人の先生を配置しても効果はないと考える。 12年度に1年生が30人となっているが、これも2クラスにすべき。世界基準では20人学級が多いので、教育委員会の方針として30人でも2クラスという内容を盛り込んでほしい。	大事なご意見をいただいたので、要望としてお聞きしておき検討していきたい。
11	戸狩小	設備等について	エレベーターは誰が利用するのか。児童が通常時に自由を使うことは止めた方が良くと思う。足が不自由だったり、避難所として使うようにしてほしいと思う。	通常時に児童が自由に利用する想定ではなく、ケガをしたり階段での移動が難しい児童の利用を想定している。

No.	学校名	意見区分	意見	懇談会での回答
12	戸狩小	クラス数・児童数について	計画には3年生が35人で1学級とするとあり、昨年の説明会でもそこについては市で加配するという話をいただいた。その加配の仕方について、2年前から検討委員会で検討した経過も書いてあるが、その検討委員会でも小学校の適正規模について「1学年複数学級が望ましい」としているの、35人の学年も2学級にしてもらいたい。 なぜこのような事を言うかという、人数が多いと手が行き届かず担任も児童も大変だと思う。	学級数について、計画にある想定学級数はあくまで県の学級編成基準で算出した数字だが、市としては基本的に30人を超える場合は加配を付ける方向で考えている。2学級に分けることを大事にしながら、あえて1学級にしたまま先生を2人付けるなど、運用の仕方はいろいろあると思っている。学習内容・教科等によって、少人数に分けてきめ細かな教育を行うのが効果的な場面もあるし、大人数でダイナミックに授業を行うことが効果的な場面もあり、その時々児童の個性や顔ぶれに応じて弾力的に運用することも必要ではないかと思っている。 過去にも3学級分の先生が配置されたが、あえて2学級にしてもう1人の先生は両クラスをサポートする形で運用したこともあった。どのやり方が良いかを顔ぶれに応じ選択肢を広げて運用するやり方がいいと現在は思っているが、いただいた意見も参考としたい。
13	戸狩小	設備等について	詳細設計はこれからということだが、保健室にシャワールームとトイレは必要だと思う。お子さんの中には便意を感じにくい児童や、トイレに失敗してしまう児童もいるのでお願いしたい。	保健室へのトイレやシャワーの設置を希望する意見をいただいたが、計画の9ページにもシャワー施設の設置を盛り込んでおり、本日いただいた意見も踏まえ実施設計に向け検討していきたい。 【意見への対応】 保健室にシャワーとトイレを設置するよう基本設計作業の中で対応したい。
14	戸狩小	新しい校舎・グラウンド等施設について	平面図にはスキー置き場が設けられるようだが、現戸狩小にあるスキー置き場のイメージでよいか。そうであれば、現在冬期はクロスカントリースキーについてグラウンドだけでなく、堀之内の農道もコースとして使ってスキーをやっている。長峰の丘の上は田んぼも農道もなく、グラウンドだけの練習では効果も上がらないと思うので、もう少し距離を伸ばせるような練習ができるよう検討いただきたい。これまでも全国大会で活躍する選手が生まれているので、そのような伝統が消えないような環境を整えていただきたい。	各学校で行ったワークショップでも同様の意見をいただいている。計画の目指す学校の取り組みでも「体力の向上」を盛り込んでいるので、いただいた意見を踏まえ検討していきたい。
15	戸狩小	新しい校舎・グラウンド等施設について	ブックラウンジの天井が高いので、照明をつけても暗い気がして心配。両側に部屋があり風通しも心配。 また冷暖房について吹抜けでも大丈夫か。北側の道路から入る道は階段を使って昇降口に来ると思うが雪対策は大丈夫か。	ワークショップでいただいた意見をもとに、1階・2階でそれぞれ風通しを確保するための開口を設けている。照明については上から吊るして、1階の天井ぐらいの高さに照明がくるように設計している。道路から入ってきた外構については実施設計で検討していきたい。 空調について、冬期暖房は配慮が必要と考えており、同じ構造の妙高市の学校も視察し先生から話を伺い、気密性もあり問題ないということも聞いている。また設計をしていくうえで更に検討をしていく予定。
16	戸狩小	新しい校舎・グラウンド等施設について	グラウンドに照明があるか。	グラウンドの照明は今後の検討課題とさせていただきたい。
17	戸狩小	その他	区長をやっているが、学校の運営費の一部を地元区で集金を依頼されるが、これは現実問題として区はととても大変。移住者などもおり理解を得られないこともある。協力できる部分はするが、お金の面については昔のように簡単にはいかないの、検討をお願いしたい。	区を通じて運営費を集金していただいていることに関しては、できるだけそのようなことがないようにしたい。

No.	学校名	意見区分	意見	懇談会での回答
18	戸狩小	その他	通学路について建設場所が決まってからずっと心配しているのが、戸狩～中学校の道路をどうにかしないと安全は確保できないと思う。中学校の娘がいて週に何日か送迎をするが、ほかの家庭の保護者も多い。またてるさとの通勤車両もスピードを出して通行するものが多く、たとえ歩道を付けてもそれだけでは解決できないと思うので、しっかり検討していただきたい。	交通量の増加は間違いなく発生するだろうと考えている。 現在通学路をどのように改良すれば安全に登下校できるかの検討に入ったところ。どうしても物理的に幅員が狭く難しい課題もあるが、そのような部分は運転者に安全走行についてお願いすることも含め、検討していきたい。
19	戸狩小	ふるさと学習・地域とのかわり	ふるさと学習について、小学校は通学範囲が徒歩圏内であることが多かったが、統合により広いエリアからバスを使って通学してくる学校となる。そうすると地域で支えられた学校というのが難しくなるのかな、と地域としては考えている。 戸狩小の読み聞かせボランティアもしているが、各小学校で行われている地域が支える体制というのが統合しても継続されるような計画はあるか。	ふるさと学習については、現在ふるさと学習小中連携教育カリキュラムを作っている。これまで4つの小学校で行われてきたものをすべて持ち込むのは難しいと思う。低学年・高学年・中学校を見通して、どの学年でどの地域の何を学ぶかというのを共通で考えていきたい。 これにより今まで各小学校で学んできたものの中でできないものが出てくるので、それについては地域の公民館・育成会などと連携し地域でやっていただくも考えている。このような事をベースにして、委員の先生がどの地域の何を学習するのが良いかを検討している。 ボランティア活動は、コミュニティスクールを再編成し、地域ボランティアの方々にはどう関わっていただくかも計画して、地域の方々も含め育てていただいている実感を、子どもたちが持てるような学校にしていきたいと考えている。
20	戸狩小	新しい校舎・グラウンド等施設について	職員休養室については先生方がリフレッシュできるようなものが必要だがどのようなものを考えているか。	職員休養室のイメージは、基本設計中で具体的なイメージはできていないが、いただいた意見も踏まえ実施設計に反映していきたい。
21	戸狩小	その他	火災等の緊急時は消防団の出動は第7分団だけになるか。 てるさとの場合は、第7分団のみが出動し他分団は出動せず、その代わりに照里3区と大塚・上野・大倉崎の6区のボランティアが24時間体制で有事の際に出動することを求められている。 小学校については常盤の分団だけでなく、外様や太田などにも速やかに出動できる態勢を整えておいてほしい。	てるさとの出動態勢のお話は、火災や有事の際の入所者の避難も含めた態勢として地域にお願いしているのではないかと思う。 通常の火災の際は通常の出動範囲であれば近隣の分団の自動車部も出動すると思うが、いただいたお話を防災担当課とも共有し態勢を確認・検討したい。
22	戸狩小	新しい校舎・グラウンド等施設について	・休養室について男女別に作ってほしいとお願いしてきたが実現しないので、今回はお願いしたい。 ・教室の大きさについて、8m×8mでは感染症対策まで考えると狭い。23人ぐらいまでなら良いが、それを超えると廊下まで使っても距離を確保するのが難しいと思う。そうするとオンライン学習などを行う必要があるが、現在もタブレットが繋がらないことが多いため専門的な人材配置を考慮してほしい。 ・特別支援学級について4学級となっているが、平面図では教室が足りないのではないかと感じる。 ・児童クラブや体育館のある側に、緊急車両の手配ができるかが心配。 ・プールにトイレを設置してほしい。	たくさんご意見をいただいたが、実施設計に向け検討していきたい。 パソコンの環境は新しく作る学校ということでしっかり対応していきたい。 特別支援教室は1階児童クラブ隣の特別支援教室が3部屋に分割できるようにし、2階の1部屋と合わせて4部屋確保したいと考えている。 プールのトイレ、男女別の休憩室は実施設計でご意見を踏まえ検討していく。 確認だが教室のサイズが小さいということか。 →(質問者)結論とすると狭いということ。教室だけで児童同士の間隔を取るの難しいので、もう少し広くしてほしい。 ⇒(回答)教室を広げることで他のスペースが狭くなることもあるが、今後いただいた意見も踏まえ検討していきたい。

No.	学校名	意見区分	意見	懇談会での回答
23	泉台小	新しい校舎・グラウンド等施設について	先生方の授業の準備室は必要ないか。また地域の方が関わって一緒に学習補助する場合もあるが、そのようなスペースは考えているか。	特別教室がある教科の準備室は配置しているが、算数・国語などにかかわる教材は2階に配置している教材室を活用する予定。 地域の方に関わっていただくふろさと学習スペースとして、1階の多目的室、メディアラウンジ、2階では会議室なども地域の方との交流スペースとして活用していきたいと考えている。
24	泉台小	設備等について	小学校にエレベーターがあつて事故等が心配。また屋根の雪が落ちないような平らな構造に見えるがこれで大丈夫か。	エレベーターは多様な児童を受け入れるにあたり、使用も想定されるということで設置するが、通常は児童の使用は想定していない。 雪対策は今回の建設にあたり十分な配慮が必要と考えている。今後実施設計でもしっかり配慮を考えていきたい。 バリアフリー法により新たに建設する学校ということでエレベーター設置が義務付けられている。運用については先生方と安全に使用できるよう検討していきたい。
25	泉台小	クラス数・児童数について	開校時の想定学級数は3年生が35人で1クラスとなっているが、適正規模等検討委員会で検討する中では、1学年が複数学級で編成することが望ましいとされてきたと思う。説明にはなかったが、これまで検討・説明してきた経過や到達点を踏まえ、教育委員会として(県基準で1クラスとなる学年があることについて)どのような姿勢で臨んでいくのかを説明してもらわないと納得できない。令和12年度は1クラスになる学年がもっと増えるがあわせて考えを示してほしい。	学級数については、計画案8ページに書いてある学級数は県基準で算定したものであるが、前教育長は30人を超えるクラスは1人加配教員を配置しクラスを2つに分ける説明していた通り、現在もそういった場合は加配教員を一人配置する予定。ただし、これまで県内他校では基準を原則としながら、3学級分の人数がいる学年でも、2クラスにしたまま3人目の先生を両クラスのサポートに配置するという運用をして効果を上げたという事例もあった。今回のような場合も、2学級を想定しながらも、単純に2学級に分けるのではなく、学年の状況、教科や習熟度によって少人数学習もできるような選択肢を示しておくようなことを考えている。
26	泉台小	新しい校舎・グラウンド等施設について	特別支援学級を4学級想定されているが、色々なお子さんがいらっしゃるの、どんなスペースで学んでもらうのが良いかは難しいがもっと余裕がある方が良く思う。	特別支援学級の教室は、体育館近くの教室は3つに区切る事ができるようになっている。知的障害学級が1つ、自情障学級が2～3を想定しており、特別支援学級児童の中でも特別対応が必要なお子さんは2階の教室で学習ができるようにしたい。
27	泉台小	設備等について	コンセプトの最初に「安心安全でほっと・・・」があり私も大変大事なことだと思う。これに関連して保健室はいろいろな児童が利用するので、保健室内にトイレやシャワールームの設置をお願いしたい。どの児童にも安心安全でホッとできる学校をめざすには大事な部分だと思う。	保健室のトイレは他の地域でも意見をいただいております。今後の検討としたい。
28	泉台小	新しい校舎・グラウンド等施設について	給食棟にランチルームは予定していないか。	専用のランチルームは配置せず、1年生の給食指導は1階の給食棟そばの多目的室を給食で利用していくことを想定している。
29	泉台小	児童クラブ	児童クラブについても4校が一緒になるのでこのスペースで十分か、検討していただきたい。	児童クラブの大きさは、1・2年生の教室と比較していただくと、概ね教室4つ分ほどの大きさを確保している。令和7年度の児童数想定が飯山小学校とほぼ同程度で、飯山小の定員70人が利用するには広さは確保できているのではないかと考えている。詳細な間取り等は検討委員会で検討していきたい。

No.	学校名	意見区分	意見	懇談会での回答
30	泉台小	通学方法・通学路	通学方法について、現在柳原地区に住んでいるが、城北中に通う生徒のバスが自分の集落の公民館まで上がれないということで隣の集落の公民館まで歩いていたら聞いて、バスも上がれない道を子どもに歩かせるのはおかしいのではないかと感じていた。それなら学校まで車で送っていくというお母さんもあり、それならスクールバスの意味があるのかと思うがいかがか。	通学方法は来年度十分考えていきたい。他の地域懇談会でも通学に関する意見をいただいております、すぐに家の近くまでスクールバスが来ると子どもの体力低下が心配という声もあった。何がいいかといことは来年度十分話を聞き議論する中で、望ましい通学方法を決めていきたい。
31	泉台小	ふるさと学習・地域とのかわり	少子化の中で学校統廃合は避けて通れないが、小学校がなくなってしまうということは、中学校や高校以上に当該の子どもたちや地域社会にとって大きな出来事になる。特に低学年の児童への負担は大きいので配慮をお願いしたい。地域社会にとっても学校が地域から離れることで、地域と学校との連携が取りにくくなるということも頭においていただきたい。	地域と学校の関わりについては、ふるさと学習小中連携教育カリキュラム作りを始めているが、4つの小学校が1つになる事で、これまで行われてきたふるさと教育の中でできないものが出てくる。統合小で取り扱う内容を何にするかはカリキュラムの作成委員会で検討しており、小中学校9年間を見通して何年生でどんな地域教材を学習するかといったことを考えている。その中で4小学校で行われてきたすべてのふるさと学習はできないため、どうしても統合小学校では扱えないものが出てくる。そうしたものは学校の中に展示室を設けてみてもらったり、地域の公民館や育成会活動として、例えば夏休みの体験教室のようなもので子どもたちに体験をしてもらうなど、地域に協力していただきながら地域活動の活性化も図っていけるようになればよいのではないかと考えている。
32	泉台小	通学方法・通学路	三中時代に使われていた小泉から学校に向かう道路があるが、冬期については十分な安全確保に配慮していただきたい。	登下校途中に痛ましい交通事故が発生する状況が全国で起きているが、市内でも点検を重ねていく中で引き続き改善を図っていきたい。統合小についても市の中では道路管理者である建設水道部と検討を始めており、今後も通学路について十分検討していきたいと考えている。
33	泉台小	児童クラブ	児童クラブについては指導員、教育内容や教室配置については保育園保護者、地域住民、教職員の意見をしっかり聞いていただきたい。	今回の地域懇談会は時間帯の問題もあり保育園の保護者にご参加いただくのは難しかったかもしれないが、保育園長や校長先生も出席しているので情報を共有していきたい。また小学校の保護者の方々にはいろいろな場面で話題にさせていただいて、ご意見あれば出していただきたい。
34	泉台小	通学方法・通学路	徒歩通学の範囲はもう決まっているのか。	徒歩、バスなどをどうしていくかは来年度検討をしていく。
35	泉台小	通学方法・通学路	保護者としては通学方法や通学路が一番重要だと考えている。通学方法検討委員会を立ち上げるとのことだが委員会のメンバーは誰になるか。また内容は決まっているか。決まればこのような説明会あるかもしれないが、このような説明会は8～9割決まったものを説明に来て、参加者から意見をしても何も変わらないということが多く思っている。検討の内容は20%程度の内容でもいいので保護者に説明をいただきたいと思っている。安心安全の通学路というが、私たちが5年も6年も言っても横断歩道1つ作ってもらえない体制を信用することはできない。繰り返しになるが、委員会のメンバーと検討内容を説明する周期を教えてください。	今の予定では、基本計画案は年内を目処に作りたいて考えており、その後、事務局内で資料を集めたりデータを分析したりして、令和4年度早々には検討委員会の組織作りを進んでいきたいと思う。現段階として詳細は決まっていないが、委員として参加いただきたいと考えているのは各学校のPTA担当の職員の方、PTA役員の方には一緒に検討に参加いただきたいと考えている。その他詳しくは現段階では決まっていない状況なので了承いただきたい。

No.	学校名	意見区分	意見	懇談会での回答
36	泉台小	通学方法・通学路	(No.35回答への再質問) PTA役員というのは数年検討するうちの1年で交代してしまう。私もPTA役員で参加したことがあるが、「ほっぺた回し」で参加しているので「いるだけ」になってしまう検討委員会を見てきた。そうならないよう、長期のスパんで考えてくれるメンバーを選んで検討していただきたい。	お話を聞きまして、計画検討の期間等も伝えながら、PTA等の組織から選出してもらいたいと思った。そのように検討していきたいのでご承知いただきたい。
37	泉台小	通学方法・通学路	新しい小学校はバス通学、徒歩通学のエリアはわからないが、学校近くの道路に現状歩道が1つもないが、冬期であっても1年生や2年生が歩道のない道を歩いて通学するようになるのか。	通学路の状況を考慮すると、これから開校までの3年間ですべて整備するのは難しいだろうと考えている。通学路を検討する中で課題を明らかにしながら、教育委員会でそれぞれ県や市などの道路管理者と連携し順次整備を進めていきたい。ただどうしても開校までに全て歩道整備というのは難しいので、検討委員会の中でも十分話をお聞きしながら、危険の解消をできるようにしていきたい。
38	泉台小	通学方法・通学路	(No.37回答への再質問) このような回答では計画に書いてあるような安心安全な学校の実現はできないのではないか。 開校までに歩道ができず準備ができない、それでも開校は予定通りに行います、というのではおかしな話ではないか。	道路の工事は間に合わないが、安全を図るためにバスで通学する範囲をこのようにしよう、ということも検討すべき1つの安全策ではないかと考えている。歩道が安全を守るすべて、というのは現状難しいので、バス通学なども含めよりよい通学方法を検討していきたいと考えている。
39	泉台小	その他	プールの南側に築山などのエリアがあるが、航空写真西側には森もあるので、森の一部を自然を活かした形で子どもたちが遊べるスペースとして活用できないか。ピオトープまでは難しいかもしれないが木を活かした遊び場を築山などに合わせて整備できたらよいのではないか。	実際に現場に行くと急傾斜だったり、法尻の先の利用は地主さんの了承が必要であったりするが、他校ではスキーのコースがほしいという要望いただいている中で活用ができるかを検討していきたい。
40	泉台小	新しい校舎・グラウンド等施設について	資料2の外観イメージを見ると素晴らしいなと私も思ったが、冬期は猛吹雪で外にも出られないような日も多いだろうと思う。ただ内観イメージにあるメディアラウンジが売りだなと感じた。自分が子供なら、こういうスペースで遊びたいと思うだろうと考える。冬場の外に出られないような日には、ここを活用してもらいたいと思う。イメージ図では子どもが床に座っている絵があるがここは床暖房になるか。1~6年生がこのスペースに集って楽しく過ごす姿が新小学校の売りになるのかなと私は考えている。あとは落下物の防止策や、夏場も衛生的に利用できる床素材の検討などの課題もあるが、このスペースを有効に活用してほしいと願っている。	暖房方法は現在設計作業の中で、床暖房にするか、その他の方式にするかを検討している。子どもたちが寒い思いをしないように考えていきたい。設計については来年度からの実施設計でもいただいた意見を踏まえよりよい学校づくりを検討していきたい。
41	常盤小	新しい校舎・グラウンド等施設について	2つ伺いたい。 1つ目は体育館の社体利用についてで、学校側(児童)と何処で区切るのか。2つ目は図面に寸法が出ていないが、体育館はどの程度の広さになるのか。	社会体育・児童クラブとして使う為には、学校と遮断したり、分けるという為にシャッター等の部分が必要になる。場所は何処がいいのかは設計事務所にも現在検討いただいています。区切れる部分は設けたいと考えている。 体育館面積は約1,100㎡、縦36m、横幅25mとなっている。(ステージ含む)

No.	学校名	意見区分	意見	懇談会での回答
42	常盤小	小中連携	それぞれの地域の想いを大切に受け止めてくださっていることがこの計画から感じ取れる。小中連携カリキュラムを大事にしてください。幼稚園・保育園から地域が一つになって、高校まで含めて自分たちがしっかり育てていくという思いが感じられる。小中連携カリキュラムを特に大事にしていただけるとありがたい。 長峰の丘に建つという恵まれた自然環境を、最大限に活用していくことを考えていただきたい。そして、そのことによって子ども達を育てていくというねらいに繋げていってほしい。	小中連携カリキュラムは基本計画(案)の4Pにあるように、大事にしたい重点とした教育に位置付けて、取り組むという事で、9月に委員会を立ち上げて専門的にやってくれる校長先生を委員長として、先生方の手で吸い上げて行く。ということで、始まったところ。委員の皆さんで検討してもらい、良いものが出来ていくと思う。子ども達はそのカリキュラムによって、低学年で学ぶもの、高学年で学ぶもの、また、それを活かして中学で学ぶべきものといった、繋がりを明らかにしてやって行くべきと考えている。4小学校それぞれの地域に、特徴的な学ぶべき良い教材がたくさんある。小学校1年生から中学3年生までそれぞれのところに設置してやっていきたい。また、その辺りでも良いご意見があれば教えていただければありがたい。
43	常盤小	新しい校舎・グラウンド等施設について	施設の面での検討においても子どもを前面に置いていただきたい。日当たりの良い所と悪い所がどうしても出来てしまうので、そういったことに対しても配慮してほしい。例えば2階の会議室と英語教室は場所が逆になると思う。通風・採光や自然環境を含め、子どもたちが環境の良い場所で学習出来るように検討してほしい。 子どもを優先とした、目指す子どもの姿が達成しやすいような教室配置を考えていただければありがたい。すべての活動が自分達の生活する校舎を取り巻く環境とつながり、調和して行くんだという基本に立ち返っていただきたいなと思って、さらにという想いで意見させていただきました。	子どもが通いたくなる学校、親が通わせたい学校というのを大切にしていきたいという事で、今回の案を作らせていただいた。指摘いただいた位置、周りの自然環境等も十分に活用していきたいと考えている。また、建物の中の教室等の配置につきましては、実施設計の中で、内部でも検討を重ねて、最終的により良いかたちにしたいと考えている。
44	常盤小	設備等について	コンセプトにある「安心・安全でホッとできる学校」で、ハード面では配慮されているが、子ども達にとって一番の「安心・安全…」はソフト面だと思う。困ったことが困ったと言える、分からないことが分からないと言える、苦しい時に苦しいと言える学校。そういう意味が本当の意味で「安心・安全でホッとできる学校」だと思う。特別支援教室も4クラスの予定であるが、もっと分かれないと子ども達は学べないし、丁寧に関われないと思います。教員の配置も多くお願いしたい。保健室の中にシャワー室・トイレがあると良いと思う。 近年は色々な感染症が発生している。今後のことを考えると、十分に間隔が取れる大きさの教室が欲しい。	教職員の皆様ともワークショップなどを重ね、こういった形(案)に取り入れさせてもらった。特別支援学級は4学級だが、現段階は基本設計であり実施設計の中で具体的にこういったものが一番が望ましいのか再度検討していきたい。シャワー室は、計画案P9の主な想定施設の中でも書いてある通りシャワー施設が必要と考え、この基本計画案の中に入れている。場所等については何処が一番適切なのかという部分も実施設計の中で改めて検討していきたい。 教員増の部分については、教育長も現段階から色々と県に話をしており、引き続き開校に向けて取り組んでいきたいと考えている。 弾力的な学校運営をしていくのが大事だと考えており、大きな集団になったり、小人数の集団になったり、少なければ良いという問題でもないと思うので、小規模の良さ、大規模の良さの両方を活かせるような学校にしたい。

No.	学校名	意見区分	意見	懇談会での回答
45	常盤小	新しい校舎・グラウンド等施設について	屋根に勾配がなく、雪を載せておくと思うが、雪がたくさん積もった場合、雪下ろしが必要になるのか。その場合、呼ばれるのは嫌だ。また、吹き抜け部分について、転落や物を落とすといった危険性はないのか。	今の計画では屋根は南に向かって緩勾配となっており、雪は基本的に載せておく。軒先は大きな樋にしてあり、雪庇があっても、雪が溜まっても落雪しない。ただし、雪庇であれば風で少し落ちてしまうので、その場合は雁木空間の下の庇より先に雪庇の雪が落ちるようにすることで対策し、安全性は確保している。雪下ろしはやらずに済むように、構造的にもしっかりとした対応を考えている。吹き抜け部分の安全は今後実施設計の中で検討していきたい。 このような吹き抜け空間が設けられている学校が妙高市にあり、事務局と設計事務所で見させてもらっている。その先生からも学校運営についてもお話を伺っており、そういった面も参考にしながら設計の中で位置づけていきたい。
46	常盤小	新しい校舎・グラウンド等施設について	子ども達の荷物が年々増えていく。例えば袋を掛ける場所やタブレットを収納するラック等は何処に設置されるのか。理科室は、色々な自然を観察することを考えると、南側にある方が良いのではという気がするが。	理科室の位置については、検討委員会の中でも同じような意見をいただいた。子ども達が一番生活する教室を、南側の条件が一番良い所へ設けることを優先的に考えた。1階も2階も南側へ理科室を設ける場所がなく、このような計画となっている。外の方へ出て野外観察する時、昇降口へも出られるという事で、この位置で考えている。